



# 新工SPH通信

VOL.81

新潟県立新潟工業高等学校

SPH推進委員会

平成31年1月11日

Community cooperation

平成30年12月6日(木)午前、修学旅行の中で企業研修を行いました。科ごとに別々の企業や建設現場等を見学し、台湾の企業の様子、日本とのつながりなどについて学習しました。



## 【見学内容】

- 機械科 順益車輛公司 (バス等の車両生産工場の見学)
- 電気科 侑能工業公司 (オーディオのヘッドフォン部品の製作場の見学)
- 工業化学科 南僑桃園観光体験工場 (水晶石鹸作り体験等)
- 土木科 桃園大圳 (日本による植民地時代に作られたダム見学)
- 建築科 福住建設 (野球名人堂とホテル建設現場見学)

## 【生徒の感想 (スキルアップシートより)】

- (10年以上売り上げトップという)業績も工場内を清潔に保つといった基本的な心がまえからもたらされているのだろうと感じた。
- 台湾では今、環境に厳しいようなので、次に来る機会があれば、環境についていろいろ調べてみたいです。
- 小さな部品がたくさんある中、たった一つでも不備があると注文取り消しになってしまうのがわかった。
- 欧米や日本と取引をするには国際規格を取ることが重要なのが分かりました。
- 台湾の企業は、小さな規模でたくさんの技術がつまみ、職人一人一人が生き生きと生きている。
- 日本だけでなく多くの国が高い技術を持っている。それを合わせたらとても便利な物ができるんじゃないかなと思う。
- (桃園大圳ダムの)話を聞いて、日本と台湾の関係が分かった。これからも良好な関係が続いてほしい。
- 台湾のダムには(観光などの)いろいろな効能があったので、日本のダムにはどのような効能があるか知りたいと思いました。
- 野球名人堂は車いすの人でも1階から5階まで行けるスロープがあったので、高齢者に優しいことを発見した。今後しっかりとバリアフリーのことを考えてなにかをつくりたいと思いました。
- 建物をボール型にするという考えやお客様が快適にすごせるように全ての設備にこだわっていることはすばらしかった。ユニークな発想と相手を思いやる気持ちで建物は良いものになるのだと思った。

## 【生徒の変容と身についた力 (スキルアップシートより)】

- 日本の機械が導入されていたり、日本に部品が輸出されていたり、というグローバル化を目の当たりにし、世界で仕事をする視野を持つ必要性を感じ始めた。
- 日本と台湾の工業を比較することで、世界の工業の発展に対して新たな視点・関心を持つようになった。
- 製品や建造物の利用者の目線で工業製品や建築について考え始める生徒が見られるようになった。